

枕 飾 り

1、神棚を伏せる

半紙に×印を書いて、神棚を隠すように張る

櫛(サカキ)を取り除く (血縁の薄い者が行うこと)

2、床に、四国 88 箇所や西国 33 箇所、弘法大師等の掛け軸を掛ける

3、枕直し

遺体を安置する場所を清掃し、遺体を北枕にして安置する。

① 遺体の枕元に『枕掛け〔不動明王の掛け軸〕』を掛ける。

『区長・班長さまより、地区寺の掛け軸を借りてくる』

② 遺体の枕元（掛け軸との間）に小さな机を置き、白布をかけ、その上に花瓶・香炉・燭台の三具足を用意します。

- 花瓶に花を飾り（一本の櫛で、水は入れない）
- 燭台に灯明（ローソク）を点じ
- 香炉に香をたくのですが、この際の香は「不断香」と呼ばれ、常に消えることなくお供えするものです

③ 枕飯を供える

- 約一合の米を空の釜に入れ、次に水を入れてご飯を炊き、そのすべてを死者が食していた茶碗に山盛りに盛り、
- 箸を一つは中央に立て、もう一つを横に寝かせて供える

枕飯を炊くときは、米は升では計らないで凡そ1合の米を、空の釜に先ず米を入れてから水を濯ぎ米をとぐ（米を綺麗にはとがなない）。普段使用する竈は使わず、家の外で少し芯が残るように炊く（飯に魔力が宿るとされる）。炊いた飯は、炊いただけ残さずに盛り切ります。枕飯の茶ワンは生前使用していたものを用います。その枕飯の盛り方は大高盛といい、一杯で中味は二杯分あるように盛りあげるのです。このご飯に生前使用していた箸を立てます。神式は二本を揃えて立てますが、仏式は、一般的には箸を一本横にさし飾り止めとし十文字に立てます。

④ 枕団子を供える。

⑤ 湯飲茶碗に、お水も供える。

⑥ 金（りん）を置く。

⑦ 守り刀を置く。

